

令和5年度 第3回大津市総合教育会議

- 1 開催日時 令和5年9月25日(月)
開会：10時00分 閉会：11時30分
- 2 開催場所 新館2階 災害対策本部室
- 3 議題
 - (1) 講演
「これからの情報社会に必要となる「情報モラル」をどのように育てるか？」
常葉大学教育学部 講師 酒井 郷平 氏
 - (2) 質疑応答
- 4 出席委員
島崎教育長、壽委員、田村委員、周防委員、大西委員、佐藤市長
- 5 会議に出席した事務局職員
教育部長、富永教育部次長、小島教育部次長、教育総務課長、学校教育課長、
児童生徒支援課長、学校 ICT 支援室長、教育センター所長、教育支援センター所長、
教育総務課長補佐、教育総務課副参事
政策調整部次長、企画調整課長、企画調整課主査
- 6 議事の経過 別紙のとおり

1. 開会

2. 議題

(1) 講演

「これからの情報社会に必要となる「情報モラル」をどのように育てるか？」

常葉大学教育学部 講師 酒井 郷平 氏

資料1 「これからの情報社会に必要となる「情報モラル」をどのように育てるか？」

説明

〔質疑応答〕

- 大西委員 SNS上でトラブルがあり、学校に来られない子がおられる場合、家庭での指導についてどのように対応したら良いか、先生のお考えをお伺いできればと思います。
- 酒井先生 家庭での指導においてポイントとなるのは、1つは保護者の方の認識についてです。先ほどのカード比較の分類法は、保護者の方にも活用しており、保護者と子どもの間で認識の違いが浮き彫りになることがあります。まずはそういった認識の違いを共有していただくことが重要であると思っております。もう1点は、ルールづくりについてであり、家庭でもルールを作るということが第一歩であると思っております。ただし、よくあるルールとして、「タブレットは大切に使いましょう」や、「遅い時間まで使わない」、「不適切な写真をアップしない」などは、ルールではなくスローガンと捉えております。具体的に、「大切に使うとはどういうことか」、「遅い時間は何時から」といったような、人によって認識の違いがあるようなことについて、具体的に決めていく必要があります。また、これらのことを、学級通信等を通じて、学校から呼びかけていただくことも有効であると考えます。ルールづくりについても、単にルールを決めれば良いのではなく、それを守るということも重要ですが、ルールを守るという事は他律的な行為です。しかしながら、本来は、「健康被害があるから、このあたりでやめよう」、「これは言うてはいけない言葉なので言わないでおこう」といったような、自分で判断し、自律的な部分を家庭でどのように養っていくかが重要です。そのためには、子どもたちにはルールを守る工夫を考えさせることが大切です。例えば、勉強中はスマホを触らないというルールがあったときに、これを決めて終わってしまうという家庭が非常に多いです。子どもたちからするとルールで決まっても、つい触ってしまうことはよくあり、どのような場面でスマホを触ってしまうかを子どもたちから洗い出してもらい、これを防ぐためにどうすればよいかというところまで具体的に考えさせることで、ルールが無くなっても自律的にスマホを使えるようになると思っておりますので、こういった家庭での指導が重要になると思っております。
- 壽委員 私たちの世代であれば、コミュニケーションの素地ができてから、スマホやSNSなどに触れたこともあり、無意識的に大きなトラブルに巻き込まれずにその道具を使ってコミュニケーションをとることができますが、今の子どもたちは、コミュニケーションの道具の中にスマホやSNSがある状態からスタートして、コミュニケーションのスキルを

身につけていくこととなりますが、そのような状況の中で、私たち大人や学校では、スマホやSNSをどのような道具であるにとらえていけば良いのか、先生のお考えがあれば教えていただきたいと思います。

○酒井先生 今の子どもたちにとって、スマートフォンというのは非常に身近になってきております。端的に言いますと、子どもたちにとっては文房具のような存在になってきているイメージを持っております。例えば、我々もカメラや電話などは幼いころから使っておりますが、今の子どもたちは、それがより高度であり多様な道具として当たり前となっているという位置付けなので、そういった部分が今の我々の認識とは違うところであると思っております。そういったことから、それを取り上げたり、規制するというのは、難しくなっていると感じています。

○教育センター所長 G I G Aワークブックの活用について、今後の活用方法について先生の見解をお伺いしたいと思います。

○酒井先生 今後、学校現場において、より有効的に活用いただけるようなコンテンツの追加を検討しており、それにより、学校現場の課題に沿った活用が出来るようになると期待しております。

○学校教育課長 これまでICTを活用し、子どもたちはネットワークを通じて色々な操作が出来るようになったが、何よりも、実際の人と人とのコミュニケーションが最も大事であると考えておりますが、そのあたりについて先生はどのようにお考えでしょうか。

○酒井先生 具体例をお話しさせていただくと、自分が一緒に写っている写真を公開されることが嫌な子と嫌ではない子がおり、写真の公開について友達間でトラブルになった場合、対面のコミュニケーションがどうしても必要になってくると思います。ネット上での合意形成には限界があり、バーチャルのコミュニケーションだけではなく、対面のコミュニケーションも含めて、ネットのコミュニケーションであると思っております。そういったことから、これまでのコミュニケーションの中にプラスアルファでネットが入ってくるだけであり、全く別物になるというものではないと認識しております。

○田村委員 今の子どもたちは、小さいころから親のスマホを借りて使用していることが多く、子どもたちの方が、スマホのノウハウを身につける機会が多いと思います。そのような中で、教員はどのようなことに気をつけて、教育に関わっていけば良いか教えていただければと思います。

○酒井先生 子どもたちが1人1台の端末を活用している時代であることから、情報モラルを教える上で、先生が教えるというスタンスは無くなっていくと考えております。これからの先生は、他者と認識を共有するような場や、多様な考えを知る機会をどのように作っていくかというファシリテーションの役割が強くなっていくと思っております。先生から子どもたちに教えるのではなく、学びの場を先生がどのようにデザインしていくかという形に変わっていくと考えております。

○教育長 スマホの長時間利用について、先生が先ほどおっしゃっておられたように、スマ

ホが子どもたちにとって文房具のようになっている中で、スマホの1日の利用時間についての考え方を、健康面等の観点から、ご示唆いただければと思います。

○酒井先生 子どもたちにどのように使い過ぎの定義を伝えていくかというところですが、まずは体に悪影響が出ていないかという点を伝え、出ているようであれば使い過ぎであるとお伝えするようにしております。それでも使いすぎている場合には、依存している状態にあると思っております。そのような指針をしっかりと伝えてあげることが重要であると思っております。また、使い過ぎについて説明する際に、スマホやゲームの時間だけを考えてしまいますが、24時間をどう使っているかということを考えることが必要であり、24時間の生活グラフを子どもたちに書かせて子ども同士で比較をさせます。その中で、スマホの利用時間の割合などが全体を通して見えてくるので、そういったところをポイントとして考えても良いと思っております。

○周防委員 先ほどの講演の中のワークでもあったように、ここにいる人たちでも色々な考え方があったことから、グループの中での他者の意見を理解する必要性についてはとてもよく分かります。その中で、いろんな意見が出てくる中で、教員がどのように効果的に子どもたちの学びにつなげていくかというところについて、何か実例等があればお話していただきたいと思っております。

○酒井先生 こういったワークをする場合は色々な意見が出てきますし、それを意図して作った教材であるので、子どもたちの中でまとまらない形で終わってしまうことはあります。しかしながら、必要なことは、リスクを考えていく上で、それをどう創造する力に結びつけるかということであると思っております。色々な意見があるからこそ、自分はどういう方針で使っていけば良いか、どのように考えていけば良いかということを子どもたち自身の中で最後にまとめさせるということが必要です。自分なりの答えを子どもたちから引き出すということが、先生に求められることであると思っており、安易に答えを教えてしまうと、不測の事態に対応が出来なくなるので、子どもたちが出した答えにどのように足場かけをしてあげるかということが、先生の1つの役割であると思っております。そこに先生の意見も入れていくのが、これからのやり方であると思っております。

○市長 情報量が各段に増えている中において、子どもたちが情報の真贋をどのように見極めていくかについて、先生のお考えをお聞かせいただければと思います。

○酒井先生 これまでのメディアリテラシー教育であれば、怪しい情報については疑うということ伝えて終わっていたのですが、生成AIが出てきたことによって、怪しんだところで分からなくなってきたと考えております。生成AIの情報モラル教育は、研究のスタートを切ったところであり、これから調査していくところではありますが、重要であるのは、情報のソースをいくつか確認することであると考えており、子どもたちは、情報活用を通してそれらのことを学んでいくことが第一歩である思っております。しかしながら生成された画像については、かなり精巧になってきており、子どもたちの力で見抜くことが難しいという前提で、教育をしていかななくてはいけないと考えております。

○市長 本日は非常に分かりやすいご講演をいただき、また、学校現場にどう生かしていくのかというご示唆をいただいたと思っております。本当に貴重なご講演を賜りましてありがとうございます。本日は指導主事も多数出席をされており、いただいた知見をしっかりと学校現場の改善に生かしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導よろしく願いいたします。それでは、これをもって全ての議事を終わらせていただきます。